

ISSN 2186 – 3989

外国学会発表報告

JLESA'18-19 – 南アジア日本語教育国際シンポジウム –

International Conference on

Japanese Language Education in South Asia

2019年2月21日(木)～28日(木) ハイデラバード(インド)

国際交流センター 横田 隆志

北陸大学紀要
第47号(2019年9月)抜刷

外国学会発表報告

JLESA'18-19 —南アジア日本語教育国際シンポジウム—

International Conference on

Japanese Language Education in South Asia

2019年2月21日(木)～28日(木) ハイデラバード(インド)

国際交流センター 横田 隆志

発表題目：「ノンネイティブ日本語教師と共に行う組織内の対話型教師研修について」



インドでは憲法で認められた州の言語は 21 あり、方言は 800 言語を超える。多くの国民は母語、英語、ヒンディー語という 3 言語を学ばなければならない。このような多言語国家での日本語学習者はあまり多くないのが一般的であるが、インドでは徐々に変化している。これは、インドは、日本と経済的、政治的なつながりが強く、対日イメージが良好な国の一つであり、日系企業の誘致が活発になってきているからである。また、2017 年に安倍首相がインドを訪問し、モディ首相と日印共同声明を発表し、インドにおける日本語教育を拡大させるため日本語教師育成センター設立に向けての動きがスタートしたこともその理由の一つである。今後、日本語教育に対するニーズは高まり、インド人留学生在が日本にも増えることが予想される。また、インドでの日本語教育は、学習内容も語彙や文法の詰め込み型になり、そのための教授法、教科書が多い。これは中国での日本語教育と共通する部分であり、このような背景から今回の学会発表に至った。

今回の南アジア日本語教育国際シンポジウムは 2018 年にハイデラバードの英語外国語大学で開催された「National Seminar on Teaching Methodologies in Japanese Language Education」に引き続き、南アジアにおける日本語教育の現状と今後の課題に関する国際シンポジウムとして開催された。今回のシンポジウムは、南アジアの日本語教育の発展に資すると共に、インド、南アジア各国、日本、更には世界中で日本語教育に携わっている教師・専門家・研究者・組織のネットワーク構築を目的としており、英語外国語大学日本語学科・国際交流基金ニューデリー日本文化センターの共催で行われた。

英語外国語大学は、1958 年に Central Institute of English として 設立され、1972 年 Central

Institute of English and Foreign Languages (CIEFL) に名前が 変更された。そして、1973 年に大学として、The English and Foreign Languages University に名前が変わった大学である。英語外国語大学はインドで唯一の外国語大学であり、南インドにおける最初の日本語専攻を開き、現在は約 30 名の学生が日本語を学んでいる。

シンポジウムでは国際交流基金ニューデリー日本文化センターの小西広明さんの「南アジアにおける日本語教育の現状」と琉球大学国際教育センター教授の名嶋義直さんの「ことば『だけ』の教育から『民主的なシティズンシップ』の教育へ」の基調講演があった。また、インドの日本語教育に携わっている多くの日本語教師だけではなく、日本、ネパール、スリランカ、ミャンマーからも多くの参加者があり、日本語教育についての様々な研究発表があった。

今回の私の研究では、教える側の研修に注目した。日本語教師における研修は、「見習い型」→「トレーニング型」→「自己研修型」と学習者の多様性や学習観の変化に伴って変わりつつある。しかし、これまでの研修では、研修の内容が実践につながりにくい、その場限りの研修になりやすい、職場や周囲に影響を及ぼしにくい、というような欠点があり、教師自身の実践を客観的に捉え、他の実践者との関わりの中で相対化できるような研修が求められている。北陸大学では、毎年 3 人の中国人ノンネイティブ日本語教師が日本語を教えており、ノンネイティブ日本語教師が中心となった対話型研修を行っている。今回は、その組織内での対話型教師研修の実践報告をし、それに対してネイティブ日本語教師とノンネイティブ日本語教師に対してアンケート、インタビュー調査を行い、対話型教師研修についてどのように感じているのかを明らかにすることを目的とした研究を行い、発表した。

学会では、インドの日本語教育についての理解を深めることができた。その上で、インドでの日本語教師研修にもこの「対話型教師研修」が応用できるかについて、多くの人と話すことができた。また、インドだけでなく、ネパール、スリランカ、ミャンマーの日本語教師とも交流することができ、日本語教育のネットワーク作りも行えたと思っている。

